

資料紹介

「帝都復興展覧会」における逓信省及び逓信博物館の出品協力について

田原 啓祐

1 はじめに

大正12（1923）年9月1日午前11時58分、相模トラフ沿いのプレート境界で発生した広範囲な断層のずれによって発生した巨大地震は、神奈川県および東京府（現：東京都）を中心に隣接する茨城県・千葉県から静岡県東部までの内陸と沿岸に及ぶ広範囲に甚大な被害をもたらし、関東大震災と呼ばれている。震災により東京市および横浜市は壊滅的な打撃を受け、都市としての機能を喪失した。都市機能が完全に停止した中であって、懸命な救助・救援活動、そして復旧活動が始まった⁽¹⁾。政府においても復旧・復興に向けた準備がいち早く開始され、震災発生翌日の9月2日に山本権兵衛が新総理に就任（大命降下は8月28日）、9月27日に帝都復興院（総裁：内務大臣の後藤新平が兼務）を設置し復興事業に取り組んだ。後藤の主導のもと帝都復興院は壮大な復興構想（「帝都復興計画」）を打ち立てたが、当時の経済状況や政党間の対立などにより当初案に比べ内容・予算ともに大幅に縮小された形で進められることとなった。帝都復興院は大正13年2月に廃止され、代わりに内務省のひとつの部局として「復興局」が開設され、同局のもと、東京と横浜では6年間の工程でさまざまな復興事業が進められた。

関東大震災から6年が経過した昭和4（1929）年10月には、「帝都復興展覧会」（東京市政調査会主催、内務省復興局及び東京市後援、会期：10月19日～11月10日の23日間）が日比谷公園内に落成したばかりの市政会館で開催された。展覧会開催の目的について、東京市政調査会会長の阪谷芳郎は、「此の機会に際し何か意義ある仕事を行ひたいと種々考慮を重ねた結果、帝都の復興事業も大凡終結に近づいて来た関係上、新装の会館に於て復興展覧会を開催し、各般の方面から観た復興の威容を内外に展示すると共に、震災の惨害を回顧するに足る資料及び震災予防等に関する資料を展覧して、市民の復興意義を益々旺ならしむると共に、震災に処して誤らざる市民教育の一助にも供したい」⁽²⁾としている。

郵政博物館には、『昭和四年十月 帝都復興展覧会書類』（以下、『展覧会書類』と略記）と題した資料が収蔵されており【写真1】⁽³⁾、逓信博物館が「帝都復興展覧会」に協力した経緯

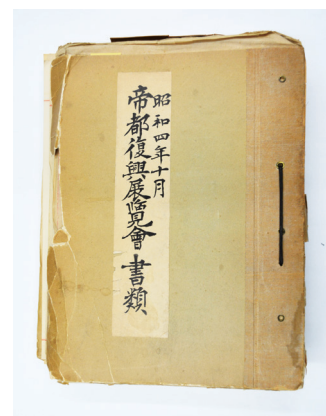


写真1 『帝都復興展覧会書類』（郵政博物館収蔵）

- 1 関東大震災当時の通信事業の対応およびその後の復興過程については、田原啓祐「関東大震災後における通信事業の復旧と善後策」『逓信総合博物館 研究紀要』第4号（2013年3月）を参照されたい。
- 2 阪谷芳郎「帝都復興展覧会の開催について」『都市問題』第9巻第2号、1929年8月。
- 3 郵政博物館収蔵図書資料（整理番号AKP/0004）。

が記録された文書が綴られている。本稿では、同書類の一部を紹介することにより、市政会館のほとんどのスペースを使用し、会期中入場者11万人以上を記録した大展覧会との関連をたどることとしたい。

② 高妻直道通信博物館長の帝都復興展覧会委員就任

「展覧会書類」最古の記録は、昭和4（1929）年7月に、東京市政調査会会長阪谷芳郎【写真2】から今井田清徳通信次官【写真3】と高妻直道⁽⁴⁾通信博物館長【写真4】の2名へ宛てた晩餐を兼ねた会合への招待状である。

謹啓仕候 酷暑之候益御清穆被為涉候段奉慶賀候、陳者今秋十月予而日比谷公園内に新築中の本会会館落成を期し、同会館に於て帝都復興展覧会を開催仕度候に付き、右計画遂行上種々御高配並に御指導相蒙度候條、乍御迷惑何分宜敷御依頼申上候、就ては右に関し御高話拝聴旁粗餐差進度候間御多忙中恐縮に存上候得共来る本月三十日午後六時東京会館まで御賁臨被成下度此段御案内申上候 敬具

昭和四年七月 日

財団法人東京市政調査会

会長 男爵 阪谷芳郎

高妻直道 殿

今井田清徳宛の招待状も同様のもので、こちらには日付も（「七月十二日」）記載されている⁽⁵⁾。

さらに一週間後の19日、東京市政調査会から通信博物館宛に前日開催された帝都復興展覧会評議員会において別紙（「帝都復興展覧会出品物類別目録作成基礎案」、「帝都復興展覧会開催計画要項」、「帝都復興展覧会評議員名簿」、「帝都復興展覧会委員（案）」）の通り展覧会の準備事項を決定した旨が通知された。評議員名簿には通信省からは今井田次官の名が記載され⁽⁶⁾、展覧会委員には、通信省から高妻直道通信博物館長及び稲田三之助工務局長が案として記載されている。

7月30日の会合での打合せでは、①復興展覧会は10月19日から約3週間開会すること、②出品物の締切期日は8月30日までとすること、③出品物搬入期日は9月30日とすることが



写真2 東京市政調査会会長・阪谷芳郎
（出典：国立国会図書館「近代日本人の肖像」
（<https://www.ndl.go.jp/portrait/>）



写真3 今井田清徳通信次官

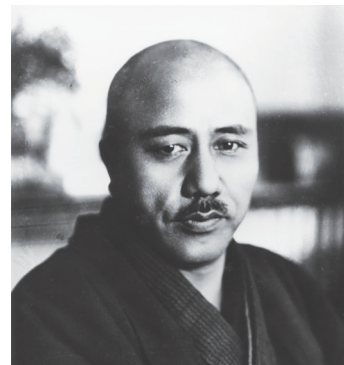


写真4 高妻直道通信博物館長

4 6代、8代、12代の3回通信博物館長に就任した。昭和4（1929）年は3度目（12代）の館長就任時である（通信博物館編『通信博物館七十五年史』株式会社信友社、1977年、399ページ）。

5 今井田次官宛の招待状の右上には「欠」と朱書されており、今井田は会合を欠席したと思われる。

6 評議員には、各省の次官、復興局長官、警視総監、東京府知事、東京市長、横浜市長、東京・横浜商工会議所会頭が選出された。

確認された。通信博物館長の帝都復興展覧会委員委嘱については、会合から4日後の8月3日に正式に承認となった⁷⁾。

③ 出品目録の作成

委員就任に先行して前日に通信博物館から展覧会について通信省の各部署に照会している。照会末尾に記載された出品条件は、東京市政調査会が提示した「帝都復興展覧会出品希望要目大綱（案）」と同一のものである。

4年8月2日 博第598号

照会

通信博物館長

郵務、電務、工務、電気、管船、経理、航空、貯金、保険、東京通信、燈台、電気試験所各局長

文書課、秘書課、保健課 各課長

帝都復興展覧会ニ関スル件

東京市政調査会ニ於テ東京市及復興局後援ノ下ニ、本年十月中旬前後凡ソ三週間日比谷公園内ニ建築中ノ会館（公会堂附設）竣功ヲ機会ニ其開館式ト日時ニ右展覧会開催ノ趣ヲ以テ当省所管左記事項ニ対シ図表、記録、写真、模型其他ノ形式ニ依リ出品ヲ要望シ居候ニ付、貴局（課）主管事項ニ関スル該当資料ノ出品方特ニ御配慮相煩度

追テ出品目録ハ本月中ニ決定ヲ要シ候ニ付、本月二十五日迄ニ其品目、数量等当館へ御通知相成度、尚ホ図表類ノ作製、写真ノ撮影等ハ出来得ル限り当館ニ於テ需ニ応スヘクニ付、其資料ハ可成支給御廻付相成様致度

記

- 一、通信諸機関ノ震害、火災及其応急措置及復旧ニ関スル事項
- 二、通信諸機関ノ復興ニ関スル事項
- 三、通信諸機関ノ対災応急諸施設及活動ニ関スル事項
- 四、震災直後對外無電通信ニ関スル事項
- 五、海事救済ニ関スル事項
- 六、其他通信博物館所蔵品中都市ノ震火災及復興ニ関シ一般市民ノ参考ト為ルヘキ事項

約2か月の準備期間で大規模な展覧会を開催することの困難は、主催者の東京市政調査会も十分認識しているようで、8月10日に同会から高妻通信博物館長に宛てた書簡にて「…（前略）御所管事項ノご出品ニ付テハ目今夫々御考案中ノ事ト被存候得共、御承知ノ如ク大体ニ於テ切迫セル期間内ニ各種事項ノ御出陳ヲ相願フ次第ニテ、是等出品物ノ作成及ヒ其完成期間等ニ付、彼此御無理ノ点有之哉ニ拝察被致候」と慮る一方で、「然レトモ展覧会ノ規模ヲ雄大ナラシメ復興ノ威容ヲ中外ニ展示スル為メニハ是非共此上ヲ充分ノ御尽力ヲ御願申上度、夫レ等ノ点ニ付委細御打合せノ為メ近日本会職員貴庁ニ拝趨可為致候ニ付、何卒ソレ迄ノ間ニ於テ御決定

7 「官秘甲第1672号 依命通牒」（昭和4年8月3日）

ヲ得ヘキ出品物ニ付テハ其御目録丈ニテモ別紙形式ニ依リ御決定置相願度、御多用ノ折柄重々御迷惑ニハ御座候得共右再応御依頼申上度、如斯御座候」とかなり強く督促している。

それでもやはり通信省の各局（課）で協議の上出品のための参考資料を短期間で収集することは困難だったと思われ、各局（課）からの回答のほとんどは市政調査会が提示した締切期日直前、一部の部署では期日を過ぎての提出となった。また、官房秘書課、管船局、燈台局、電気局、航空局、電気試験所からは該当資料の出品はなかった。

結局、通信博物館から東京市政調査会への出品目録提出について、最終的に決済が下りたのは、締切期日を大幅に過ぎた9月11日であった（博第617号 昭和4年9月11日 帝都復興展覧会出品ニ関スル件）。次表は、通信博物館及び通信省の出品目録である。

出品者		品名	現品の種類	数量	出品資料の提供元
通信博物館	①	震災ニ因ル通信部内所属職員及同家族死傷数	数字ノ表	1	文書課編纂震災応急施設要録
	②	国有財産被害状況	数字ノ表	1	文書課編纂震災応急施設要録
	③	郵便、電信、電話局所震災被害数	数字ノ表	1	文書課編纂震災応急施設要録
	④	郵便物送達ニ関スル応急措置（AKA/0044/3-2）	筆書、折畳式の表	1	文書課編纂震災応急施設要録
		郵便ニ関スル応急措置（No.5～No.8）			
	⑤	行動郵便の臨時施設	筆書	1	文書課提供ノ震災応急施設概要
	⑥	救護用郵便葉書ノ寄贈	筆書	1	文書課提供ノ震災応急施設概要
	⑦	郵便事務開始ノ宣伝文写	筆書	1	郵務局保管ノ震災関係書類
	⑧	料金先払扱開始ノ宣伝文写	筆書	1	郵務局保管ノ震災関係書類
	9	震火災当時ノ郵便局ノ位置図	着色地図	1	郵務局資料提供
	10	震火災郵便局ノ復興位置図	着色地図	1	郵務局資料提供
	⑪	震火災郵便局舎復興状況	筆書	1	郵務局資料提供
	⑫	震災ニ関スル通信省第一及第二情報（BEK/0016）	写真	1	電務局資料提供
	⑬	震災救護ニ関スル通信省第一報（BEK/0015）	写真	1	電務局資料提供
	14	震災後初メテ一般公衆電報ヲ取扱ヒタル時ノ宣伝ビラ内容	筆書	1	電務局資料提供
	⑮	震災記録（電信日誌）抄	筆書	1	電務局資料提供
	16	震災地電話局新旧局舎ノ全景	写真	10	電務局資料提供
	17	手動式及自動式電話交換室全景	写真	6	電務局資料提供
	18	臨時市内特設電話書交換室其他	写真	3	電務局資料提供
	⑲	震災直後（九月四日）市外通話取扱ニ関スル通牒	写真	1	電務局資料提供
	⑳	同（九月五日）同宣伝文写	筆書	1	電務局資料提供
	21	同 電話番号表 東京ノ分	筆書	1	電務局資料提供
	㉑	同 電話番号表 横浜ノ分	当時使用ノ印刷物	1	電務局資料提供
	23	市内外電話復旧状況（九月五日以後約一ヶ月ニ於ケル概況記録）	筆書	2	電務局資料提供

出品者		品名	現品の種類	数量	出品資料の提供元
通信博物館	②4	対外震災情報第一報ト其連絡系路	図表	1	電務局資料提供
	②5	復興東京ニ於ケル「ラヂオ」聴取施設状況	図表	1	電務局資料提供
	②6	無線電信局所ノ措置概要	筆書ノ表	1	文書課提出ノ震災応急施設概要
	②7	無線電信ニ依リ真先ニ伝達セラレタル重要信	筆書ノ表	1	文書課提出ノ震災応急施設概要
	②8	電気事業ニ関スル応急措置 (FCA/0050)	折畳式	1	文書課提出ノ震災応急施設概要
	②9	海事事業ニ関スル応急措置 (FCA/0051)	折畳式	1	文書課提出ノ震災応急施設概要
	③0	大正十二年震災写真帖 (AKA/0043)	冊	1	文書課出品
	③1	東京中央電信局ニ於ケル震災後電報取扱通数并回線数	図表	1	工務局資料提供
	③2	復興後ニ於ケル東京中央電信局現在機械数	筆書ノ表	1	工務局資料提供
	33	震災直後ニ於ケル帝都并其附近地ト各地トノ電信開通状況	図表	1	工務局資料提供
	34	震災前ノ電話加入区域ニ対スル震災被害地域図并復興後ニ於ケル加入区域図	図表	2	工務局資料提供
	35	帝都ニ於ケル電話復興状況図	図表	2	工務局資料提供
	36	震災直後ニ於ケル帝都并其附近地ト各地トノ電話開通状況	図表	1	工務局資料提供
	37	東京中央電話局震災状況写真ト現時ニ於ケル局舎并二局内所施設写真	写真	数葉	工務局資料提供
	38	震災長距離電話線路ト現時ニ於ケル長距離電話ケーブル線路電話中継所	写真	数葉	工務局資料提供
	39	震災被害ニ関スル電信電話関係ノ写真	写真	数葉	工務局資料提供
	40	自動電話交換機模型	大型ノ模型	一式	工務局資料提供
	41	海底電信線損傷見本 (相模湾ニ於ケルモノ) 地図添	実物	4	工務局資料提供
	42	復興計画ノ簡易保険局局舎模型	模型	1	経理局出品
	43	同 東京中央郵便局局舎模型	模型	1	経理局出品
	④4	東京市内通信官署被害状況図	額面	1	博物館陳列中ノモノ
	45	関東大震災郵便局被害状況図	額面	1	博物館陳列中ノモノ
	④6	大震災ト郵便 (ABA/0021)	額面	2	博物館陳列中ノモノ
	④7	同 電話 (KAA/0013)	額面	1	博物館陳列中ノモノ
	④8	同 電信 (JAA/0013)	額面	2	博物館陳列中ノモノ
	④9	同 電報 (JAA/0014)	額面	2	博物館陳列中ノモノ
	50	同 簡易生命保険	額面	1	博物館陳列中ノモノ
	51	同 郵便貯金	額面	1	博物館陳列中ノモノ
	52	復興と年金	額面	1	博物館陳列中ノモノ
	53	暫定切手及葉書張込	額面	1	博物館新調
	54	東京中央電信局震災前ノ局舎全景	写真	1	電務局・工務局出品
	⑤5	同 罹災状況 (BDD/0015)	写真	1	電務局・工務局出品
	56	同 復興後ノ局舎全景	写真	1	電務局・工務局出品
	57	震災ニ関スル郵便局等ノ写真	写真	数葉	博物館
	58	震災ト貯金	絵画	2	貯金局出品

出品者		品名	現品の種類	数量	出品資料の提供元
通信博物館	59	震災時郵便貯金非常確認払取扱高表	図表	1	貯金局出品
	60	勅令ニ依ル郵便貯金等権利確認申告受付高表	図表	1	貯金局出品
	61	非常確認払及権利確認申告受付状況	写真	7	貯金局出品
	62	関東大震災ニ依ル簡易保険被保険者死亡数及其保険金額	図表	1	簡易保険局出品
	63	同 簡易保険被保険者死亡原因別	図表	2	簡易保険局出品
	64	関東大震災ニ依ル簡易保険非常支払状況	図表	1	簡易保険局出品
	65	大震災前後電話局局舎写真集	写真	1	東京中央電話局出品
	66	大震災直後ノ通常郵便取扱状況	冊子	1	東京中央郵便局出品
	67	同 各局状況	写真	1	東京通信局工務課出品
	68	大震災後応急主要海軍処理事項概要	冊子	1	東京通信局海事部出品
	69	震災復旧ニ対スル電話事業処理状況	冊子	1	東京通信局規画課出品
	⑦	大震災記 東京通信局 (GAB/0023)	冊子	1	東京通信局庶務課出品

通信省	1	電信電話震災対応施設並ニ其後ノ復興ニ関スル記録及調査書類	記録書類	数冊	
		【電信関係】			
	2	東京中央電信局ニ於ケル震災直後電報取扱数並ニ回線数	図表	1	工務局電信課
	3	復興後ニ於ケル東京中央電信局現在機械数調	図表	1	工務局電信課
	4	震災直後ニ於ケル帝都並ニ其附近地ト各地トノ通信開通状況図	図表	2	工務局電信課
		【電話ノ部】			
	5	震災前ノ東京電話加入区域ニ対スル震災被害地域図並ニ復興後ニ於ケル同電話加入区域図	図表	2	工務局電話課
	6	帝都ニ於ケル電話復興状況図	図表	2	工務局電話課
	7	震災直後ニ於ケル帝都並ニ其附近地ト各地トノ電話開通状況図	図表	1	工務局電話課
		【電信電話写真ノ部】			
	8	東京中央電信局震災写真ト現時ニ於ケル東京中央電信局写真	写真	若干	工務局電話課
	9	東京中央電話局震災写真ト現時ニ於ケル局舎並ニ局内所施設写真	写真	若干	工務局電話課
	10	震災被害長距離電話線路ト現時ニ於ケル長距離電話ケーブル線路並ニ電話中継所写真	写真	若干	工務局電話課
	11	其他震災被害ニ関スルモノ	写真	若干	工務局電話課
		【参考品】			
	12	海底線損傷見本（相模湾ニ於ケル）並ニ地図		一式	工務局電信課
	13	自働交換機模型		一式	工務局電話課

（出所）東京市政調査会『帝都復興展覧会出品目録』（1929年）、出品資料の提供元は『昭和四年十月 帝都復興展覧会書類』から筆者加筆。

（注１）番号は、筆写が便宜上付したものである。丸数字は郵政博物館に原稿もしくは現物が残っているもの、そのうち出品資料名の後に整理番号が記載された資料は、当館収蔵の図書資料、写真資料と照合できたものである。

（注２）通信博物館出品目録の末尾に「備考、陳列場所ノ館余裕アラバ目下東京通信局ヨリ上野公園自治会館及東京博物館へ出陳中ノ震災記念電話機類ヲ転用出陳致度」と記載あり。

（注３）「帝都復興展覧会出品目録」中、通信博物館の「自働電話交換機模型」「海底電信線損傷見本（相模湾ニ於ケルモノ）地図添」は通信省の「海底線損傷見本（相模湾ニ於ケル）並ニ地図」「自働交換機模型」と同一資料と思われる。

（注４）『帝都復興展覧会出品目録』には出品資料について「返戻の要否」の確認欄があるが、通信博物館及び通信省の出品資料はすべて要返の記載がない。

表 通信博物館及び通信省の出品目録

出品件数は併せて83件に及ぶ（通信博物館70件、通信省13件）。これは東京市役所、内務省復興局、東京博物館に次ぐものであった。目録に並ぶ品の種類は、「図表」「額面」や「写真」が主であった。そのほとんどが通信省の各局（課）から提供されたものであり、「博物館陳列中ノモノ」は9点であった。

④ 出品物の搬入及び展覧会の開催

その後、当初の出品物搬入期日から5日後ろ倒しで、搬入期日が定められた。本来の搬入期日であった9月30日に東京市政調査会から通信省及び通信博物館宛に書簡が送られている。

昭和四年九月三十日

財団法人東京市政調査会

理事 佐野利器

通信省博物館 御中

謹啓 時価秋冷ノ砌益々御清穆ノ段奉賀候、陳者本会主催帝都復興展覧会出品ノ儀ニ付テハ多大ノ御清援ヲ賜ハリ御蔭ニテ諸事順調ニ進行罷在候処、予テ日比谷公園内ニ新築中ノ本会々館（展覧会場）落成仕候ニ付、来ル十月一日同書ニ移転執務可致候ニ付、向後展覧会事務ニ関シテハ総テ全所（電話銀座二〇一・二〇二番）ニ御照会相願度、尚御出品物ハ夫々製作其他御進行中ノ事ト被存候得共、諸般準備ノ都合モ有之候ニ付、来ル十月五日迄ニ日比谷公園内市政会館ニ御搬入相願度、御多用ノ折柄恐縮ノ次第ニ御座候得共、右是非共得貴意度如斯御座候 拝具
追而各所ヨリノ御出品状勢ハ別紙目録写ノ通ニ有之御参考迄ニ貴覧ニ供シ候間御落掌被下度申添候

次に展覧会場（市政会館）の平面図を掲げる【写真5】。市政会館の地階から3階まで、延べ面積4000㎡以上が使用された。通信ブースは会館3階、正面（内幸町通）向かって右端（勸業銀行側）に定められた。

市政会館の落成式に合わせて開催された帝都復興展覧会は85団体の協力を得て約7,000点の出品を実現した。入場者数114,736人、一日平均4,969人近くを記録し、当初の会期から2日間延長して開催するなど、大盛況のうちに閉会した。閉会翌日（11月11日）付で東京市政調査会から通信省宛に礼状が届いている。

謹啓時下愈御清祥奉賀候

陳者帝都復興展覧会の開催に就ては終始甚大の御配慮を賜り候段感謝に不堪候 御蔭を以て左記の成績を収め一般の好評裡に昨十日滞り無く閉会仕候 会期中雨天の日比較的多かりしに拘らず斯の如く多数の来館者を見各方面の深き満足の下に帝都復興の現状と一般都市計画及災害措置等の問題に関し極めて広範なる範囲に多大の啓発的效果を及ぼし得たるは偏に關係各位御高配の賜に外ならざる次第主催者として真に欣懐措かざる処に御座候 茲に謹で貴下の特別の御寄与に対し衷心の謝意を表し候

右閉会に当り不取敢以書中御挨拶旁々成績御報告申上度如斯御座候

昭和四年十一月十一日

財団法人 東京市政調査会

会長 男爵 阪谷芳郎

通信省 御中

記

- 一、会 期 十月十九日ヨリ十一月十日迄二十三日間（最初ノ予定ニ対シ二日間ノ日延ヲ行ヘリ）
- 二、出品者数 官公私各方面ニ亘リ八五個所
- 三、出品点数 約七、〇〇〇点
- 四、入場者数 総数 一一四、七三六八、一日平均 四、九六九八、尚一日ノ最大入場ヲ見タルハ十一月三日ノ一三、三〇三人ナリ

以上

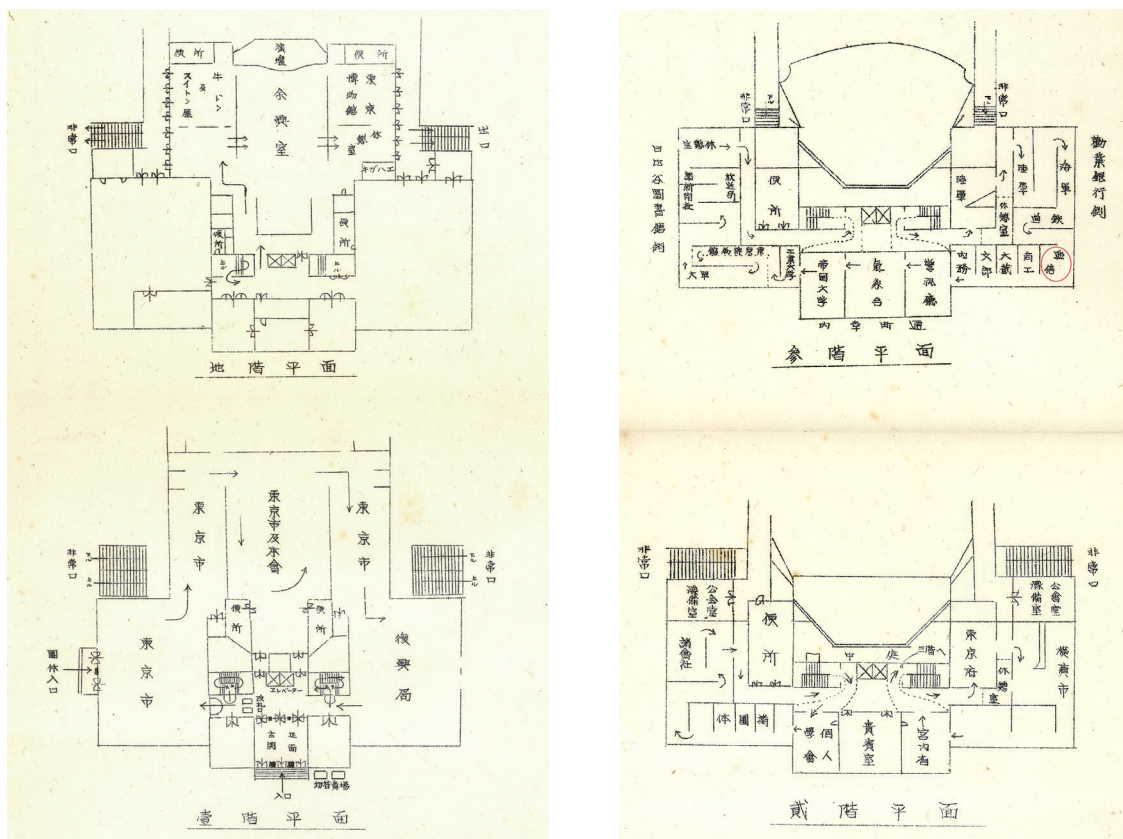


写真 5 帝都復興展覧会展覧会場（市政会館）平面図

5 帝都復興展覧会閉会後の出品物寄贈

展覧会終了後の出品物については、東京震災記念事業協会、東京市政調査会、東京市の連名文書で、東京震災記念事業協会への寄贈もしくは保管委託を、出品者に依頼した。通信省にも展覧会終了日の2日前の11月9日付（当初の会期終了予定日）で依頼文書が届いている。

拝啓時下愈御清適奉賀候

陳者今般財団法人東京市政調査会主催、復興局、東京市公園ノ下ニ開催致候帝都復興展覧会ニ

付テハ多大ノ御援助ニ與リ幸ヒ予期以上ノ効果ヲ収メ近ク閉会ノコト、相成候処、該展覽會陳列出品物ハ洵ニ帝都ノ震災及復興ヲ永久ニ記念シ得ヘキ好箇ノ資料ニシテ他ニ需メ得難キモノト被存候ニ就テハ、之等貴重ナル資料ノ保存方法ニ付テハ目下東京市ニ於テ考究中ニ有之候ヘトモ、不取敢財団法人東京震災記念事業協会ニ於テ建造中ニ係ル東京震災記念堂内ニ保存、陳列ノ方針ヲ以テ何卒御支障ナキ限り御出品一部ハ閉会ト同時ニ同協会へ御寄贈若ハ保管御委託被成下候様御了諾相願度得貴意候 敬具

追テ乍御手数右御諾否何分トモ至急東京市政調査会へ御回示被成下度

尚御承諾ヲ得候場合ニ於テハ東京震災記念事業協会ノ費用ヲ以テ不取敢東京市本所公会堂へ運搬保管致度申添候

昭和四年十一月九日

財団法人東京市政調査会 ㊤

財団法人東京震災記念事業協会 ㊤

東京市役所 ㊤

通信省 殿

記

- 一、震災ニ関スル通信省第一及第二情報（写真）
- 一、震災救護ニ関スル通信省第一報（同上）
- 一、暫定切手及葉書張込
- 一、大震災ト郵便（額面）
- 一、震災ニ依ル被害ケーブル見本
- 一、大震災ト無線電信
- 一、大震災ト電信
- 一、対外震災情報第一信と其ノ連絡経路
- 一、無線電信ニ依リ真先ニ伝達セラレタル重要信

以上

東京市政調査会はじめ3機関から依頼を受けた9つの出品物の寄贈もしくは保管委託依頼について、寄贈することが決まったのは、約4か月後昭和5（1930）年3月のことであった（博第130号 昭和5年3月6日 帝都復興展覽会出品物ニ関スル件）。

寄贈の決済に4か月の時間がかかったのは、決裁文書の第二案の文中に「寄贈方御申越ニ依リ複製中ノ処出来候ニ付、別紙目録ノ通寄贈致候、現品ハ麹町区富士見町通信博物館ニ就キ御受領相成度」とあるように、資料の複製に時間を要したためであろう。

現在郵政博物館には、上記目録のうち、写真2点が現物として残っており（【写真6】【写真7】）、ほかに額面（展示パネル）（「大震災と郵便」、「大震災と無線電信」、「大震災と電信」）を撮影した写真（【写真8】【写真9】【写真10】）、「対外震災情報第一信と其ノ連絡経路」「無線電信ニ依リ真先ニ伝達セラレタル重要信」の原稿（2点とも『展览会書類』に合綴されている【写真11】【写真12】）が残っている。

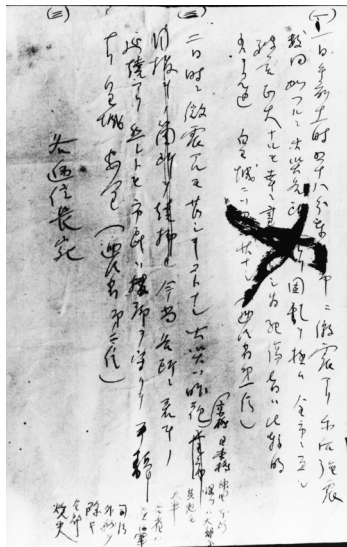


写真6 震災ニ関スル通信省第一及第二情報
(郵政博物館の資料名は「関東大震災 被害情報書」写真資料 整理番号BEK/0016)

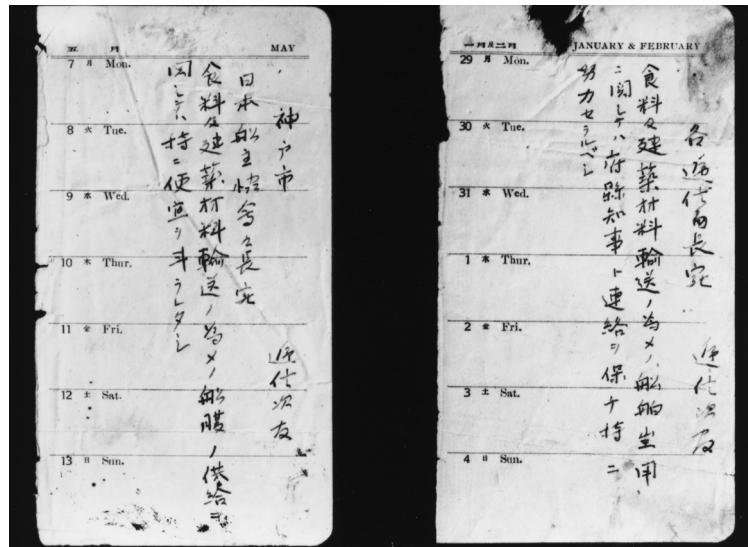


写真7 震災救護ニ関スル通信省第一報
(郵政博物館の資料名は「関東大震災 物資輸送依頼」写真資料 整理番号BEK/0015)

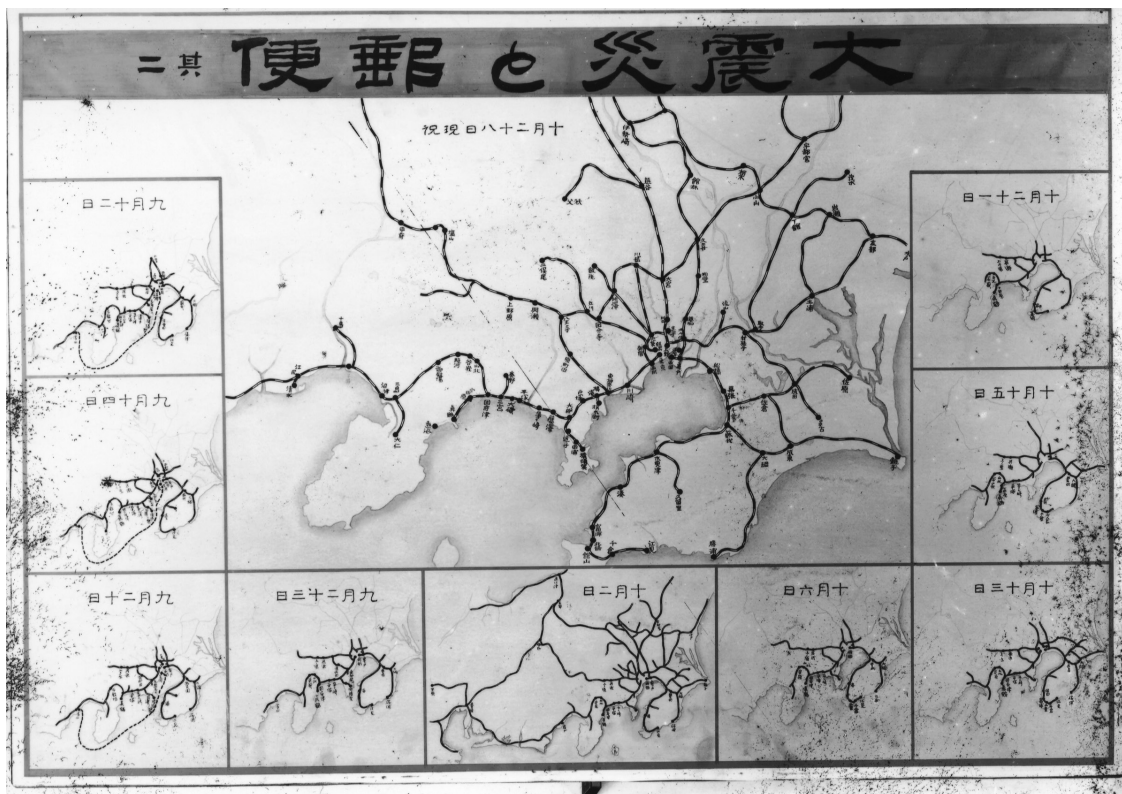


写真8 大震災と郵便 (写真資料 整理番号ABA/0021)

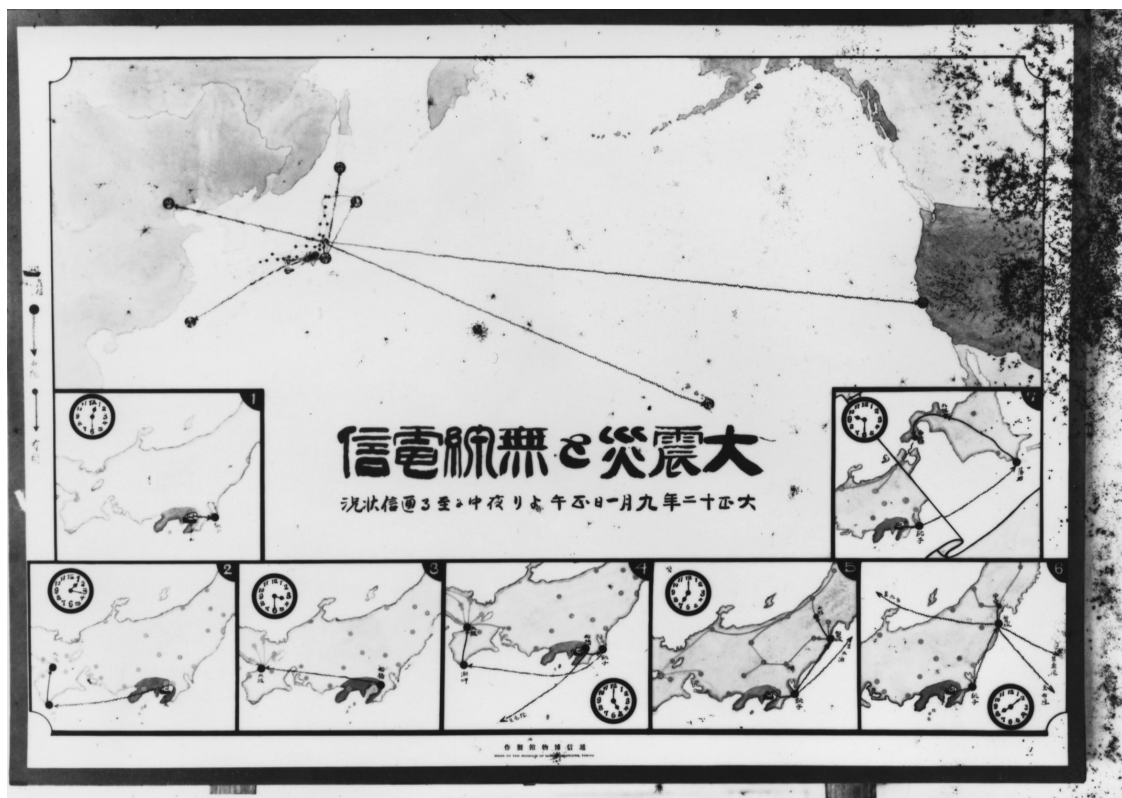


写真9 大震災と無線電信 (写真資料 整理番号LAA/0001)

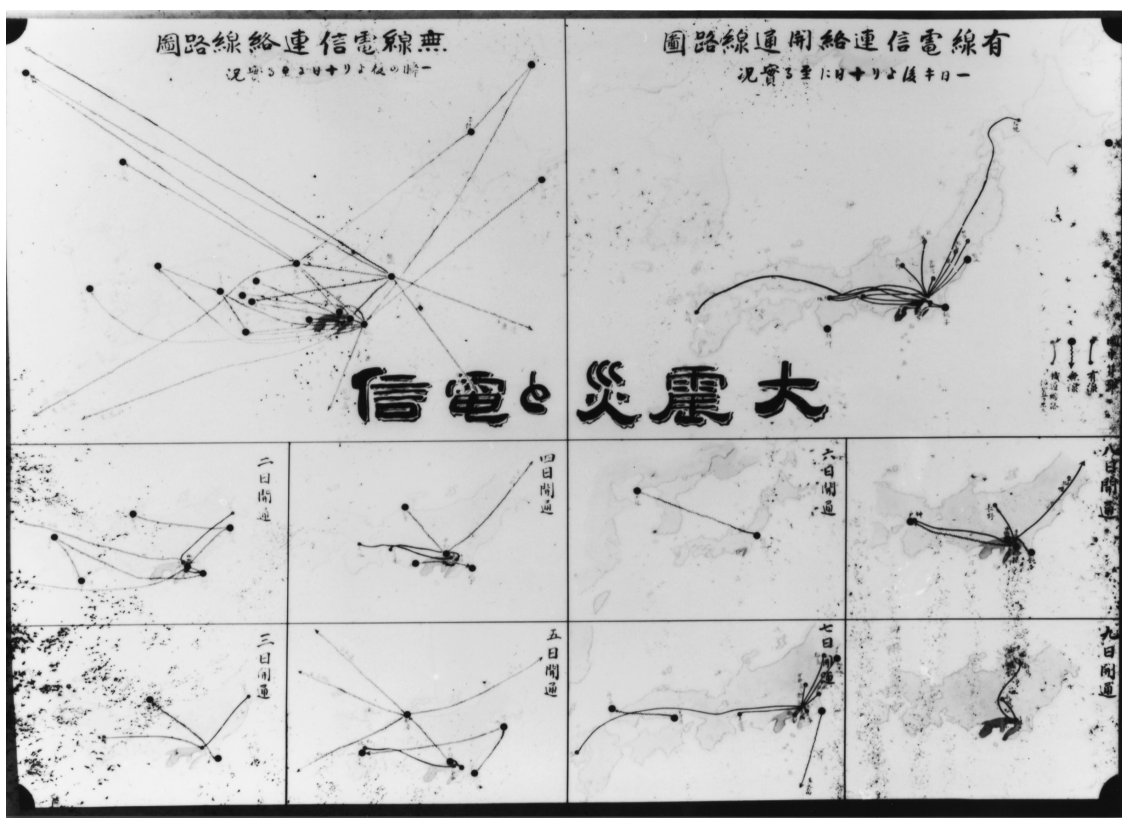


写真10 大震災と電信 (写真資料 整理番号JAA/0013)

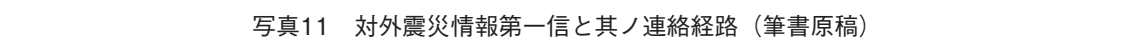


写真12 無線電信に依り真先に伝達セラレタル重要信（筆書原稿）

⑥ むすびにかえて

以上、『展覧会書類』から通信博物館の「帝都復興展覧会」における出品協力の過程を見てきた。後援者である復興局と東京市役所、東京博物館に次ぐ出品数で、通信博物館は同展覧会へ大きく貢献したと言えよう。

通信省の各局（課）に号令をかけ、約一月で提出された出品候補を取り纏め、提供された統計表や文書に基づき多数の「額面」（展示パネル）などを作成し、市政会館への搬入まで成し遂げた当時の通信博物館資料官の労苦は想像に難くない。

展覧会のために収集された資料や現在残る数少ない展示品は、関東大震災の状況を詳細に伝える貴重な資料であり、関東大震災の凄惨さ、そこから復興を実現してきた通信職員や民衆の力強さなど、現代に生きる我々に今も強く訴えかけてくる。これら先達から受け継いだ資料を末永く大切に活用していきたい。

（たはら けいすけ 郵政博物館主席学芸員）